

第4章 史跡の本質的価値

1 史跡の本質的価値の明示

現在の視点において、既存の指定理由及び調査成果に基づき史跡江戸城石垣石丁場跡（中張窪石丁場跡）の価値を次のとおり掲出する。

1. 日本史上最大の城である江戸城石垣用材を採石・加工した石丁場跡である。

史跡内には、採石に伴うと考えられるクレーター状のくぼみ（採石坑遺構）や石材を割り取るための矢穴の穿たれた石（矢穴石）、鑿等で穿たれた印、及び文字を有する石（刻印石）、鉄鉗、鉄滓等の出土遺物により、採石から石垣用石材への加工工程を推定することができる。

これらは、慶長9年（1604）から寛永13年（1636）に行われた江戸城普請の石垣用石材の採石、加工のあり方に係る具体的な物質資料であり、技術や生産過程を解明する上で重要である。

2. 東都の礎となった石材を多く産出した伊豆半島の歴史的、地質的特色を示す。

火山半島である伊豆地域からは硬質な安山岩が産出し、鎌倉時代から石塔や社寺の礎石として使用されていた。近世以後も江戸城の石垣だけでなく、江戸の市街地の石造物や土木資材として大量に使用されていた。その背景には火山の恩恵によって良質な石材が採取可能であり、また鎌倉・江戸という東国の首都への海上輸送による交通の便の良さがあった。こうした地域の特性を如実に示す遺跡群である。

3. 採石を行った大名の名前や年号が刻まれた刻印群により公儀普請であることを実感できる。

中張窪石丁場跡は指定範囲だけで約21万㎡と広大な面積で海岸まで約1kmの山中に所在し、大名の名前や年号が刻まれた刻印石が多数現存する石丁場跡である。山中に大規模に所在する当該石丁場跡において、文字の刻まれた刻印は尾根筋、谷筋に所在し、それを境界に刻印の有無の違いがあることは、公儀普請における労働力の編成、その背景にある社会的・政治的動向を解明することにつながる可能性があり、重要である。

2 構成要素の分類

史跡指定地内に存在する諸要素（図4-1、4-2）を、「本質的価値を構成する諸要素」と「本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素」に区分し、史跡の周辺地域を構成する諸要素（図4-3、4-4）と併せて3つの要素に分類する（表4-1）。

表4-1 構成要素

分類	構成要素	主な内容
本質的価値を構成する諸要素	<ul style="list-style-type: none"> ◇現存している遺構及び地形 ◇石材を割り取るための矢穴の穿たれた石 ◇鑿等で穿たれた印、及び文字を有する石 ◇埋蔵されている採石、加工、運搬等に関する遺構 ◇採石、加工に関する遺物 	<ul style="list-style-type: none"> ◇採石坑遺構 ◇自然地形 ◇矢穴石 ◇刻印石 ◇出土遺物（鉄鉗、羽口、鉄滓）
本質的価値を構成する諸要素以外の諸要素	<ul style="list-style-type: none"> ◇直接的に遺構等に関連しない山地地形、掘削や加工の痕跡の無い石、植生等の自然的要素 ◇採石活動後の人々の生業に関する社会的要素 ◇案内看板・見学路・説明板等の既存の保存活用のための施設 	<ul style="list-style-type: none"> ◇表層土壌に応じて自生した草木 ◇中張窪植林組合によるヒノキ等植林 ◇採石後に行われた耕作跡 ◇耕作に伴う石積等の石造工作物 ◇中張窪石丁場遺跡を保存する会による案内板・見学路 ◇熱海市による「有馬玄蕃石場の標識石」の説明板
周辺地域を構成する諸要素	<ul style="list-style-type: none"> ◇指定地外の埋蔵文化財包蔵地となっている石丁場跡 ◇市街地より出土した矢穴石・刻印石を展示している場所 ◇矢穴石等を利用した石碑等歴史的要素 ◇築城石船積場の伝承地や採石に関連する字名等 ◇地域の人々が集まるコミュニティ施設、文化施設、教育施設 ◇観光客が集まる交通拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ◇刻印石、矢穴石材、採石坑遺構等 ◇上多賀園地・下多賀園地・小山臨海公園・多賀中学校門前等で展示されている刻印石群、下多賀神社の石造物や住宅地内にある矢穴石・刻印石 ◇伝築城石船積場跡や修理屋敷、雁毛石、玄番屋敷として残る地名等 ◇多賀地区の神社、石丁場以外の遺跡、文化財 ◇長浜海浜公園等の公園、南熱海マリソール、地区の公民館、池田満寿夫記念館、熱海高等学校、多賀中学校、多賀小学校 ◇JR伊豆多賀駅、網代駅、桜の散策路、多賀観光協会

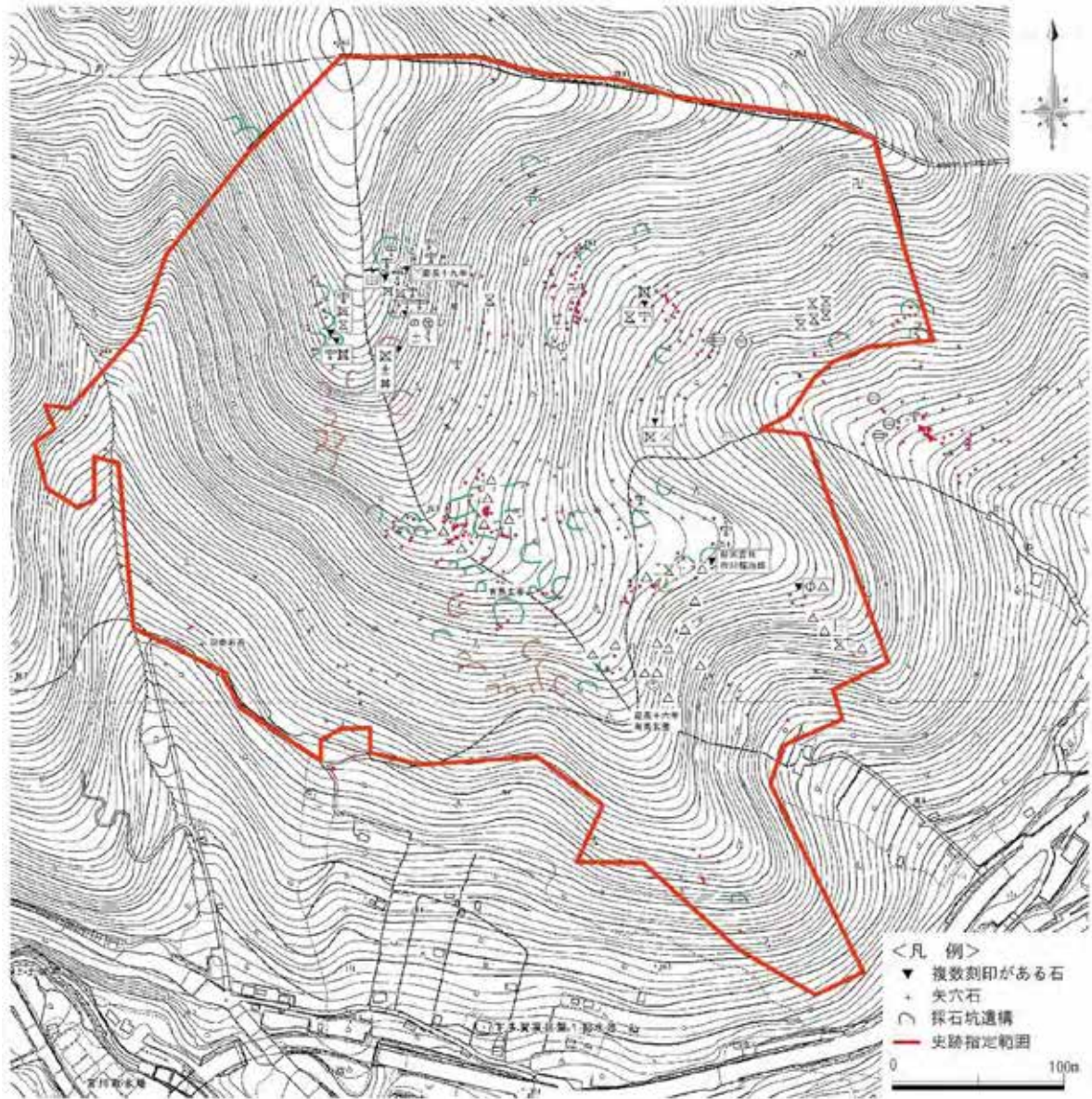


図4-1 史跡江戸城石垣石丁場跡の地形と遺構の分布



「羽柴右近」刻印



採掘場の地形



「慶長十九年」刻印



矢穴による割石



穿たれた矢穴



鉄滓



鉄鉗

図4-2 本質的価値を構成する諸要素の現状

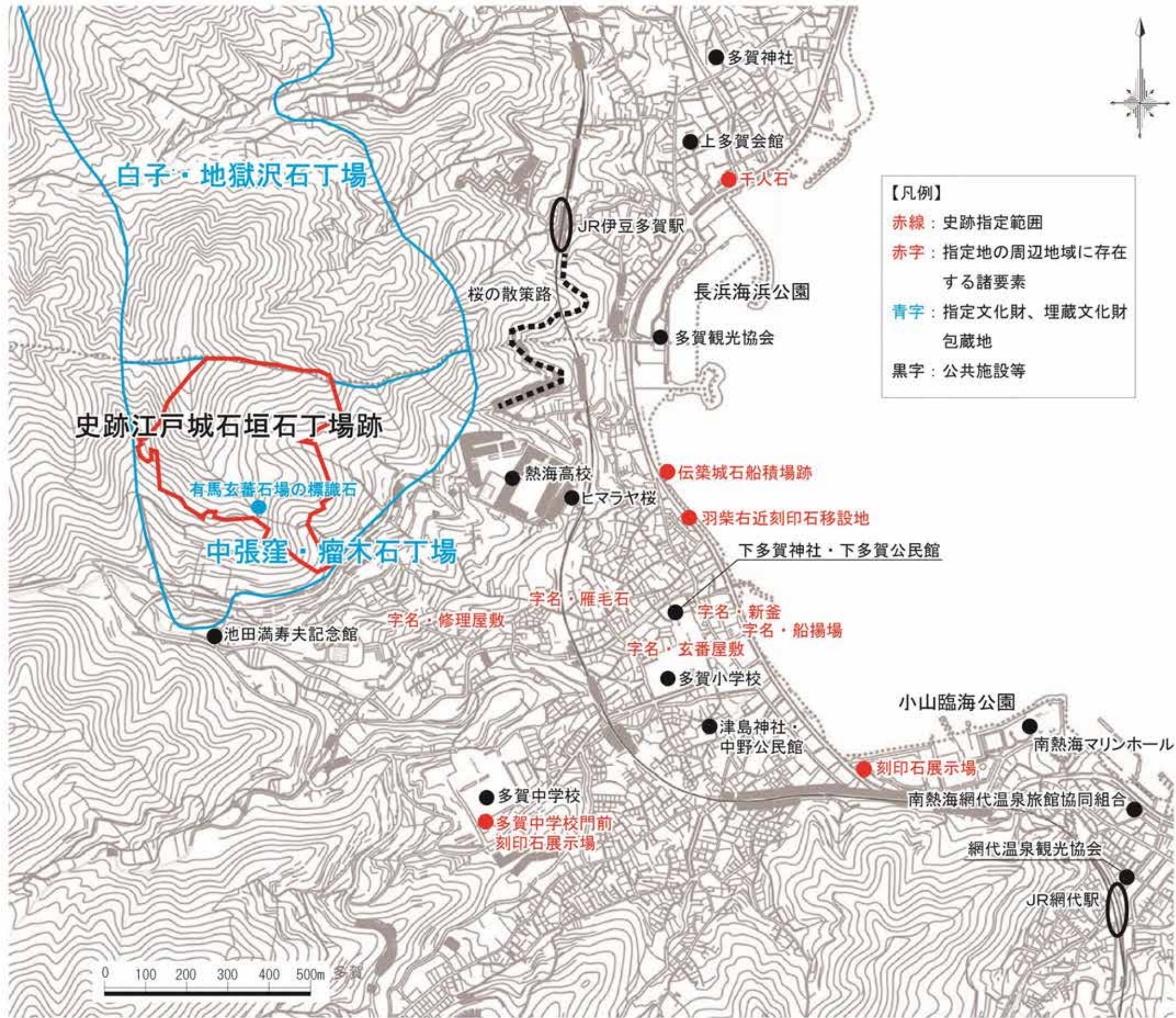


図 4-3 史跡と周辺エリア



千人石



多賀神社



白子・地獄沢石丁場跡の刻印石



小山臨海公園 刻印石展示場



羽柴右近刻印石移設地



多賀中学校門前 刻印石展示場



下多賀神社



伝築城石船積場跡

図4-4 周辺地域を構成する諸要素の現状

第5章 現状・課題

1 保存管理の現状と課題

(1) 現状

史跡内の土地の状況は植林や雑木林、耕作放棄地であるが、土壌内に石材が埋没し、ズリ場もあり全体に緩い地盤である。根の生育が十分でない樹木が多く、植林は間伐等適切に管理されていない状態である。また、イノシシによる石材周辺の土の掘り起こしも確認される。指定地は約21万㎡であるが、測量した地域はごく一部で発掘調査も数箇所のトレンチ調査のみであり、出土遺物も表採された鉄鉗、鉄滓、羽口のみで、石引道、作業小屋など採石工程全体を遺構として確認できていない。標高300m以上では公儀普請の石丁場が良好であるが、低い部分は後の間知石の採石、耕作に伴う石積み等による改変がある。

指定地外の埋蔵文化財包蔵地である「中張窪・瘤木石丁場遺跡」「白子・地獄沢石丁場遺跡」については矢穴石や刻印石の分布を把握しているにとどまっている。

また、下多賀の公園等には矢穴石・刻印石を展示している場所が散在するとともに、矢穴石等を利用した石碑等がある。なお、個人住宅地内にある矢穴石・刻印石については把握できていない。

(2) 課題

- ◇大雨、強風等による土石流、倒木に対する対策
- ◇史跡を保全するために最適な植生管理方法の検討
- ◇公儀普請の時期の石丁場跡が良好に確認できる地区の維持管理
- ◇公儀普請後の改変を受けた地区の保存管理方法の検討
- ◇イノシシの侵入を防ぐ対策の検討
- ◇保存・活用に向けた情報を得るための埋蔵文化財調査の実施
- ◇指定地外における矢穴石・刻印石の所在把握

2 活用の現状と課題

(1) 現状

史跡の所在地は山地で、入口も駅やバス路線から離れており、一般公共用の駐車場もなく、来訪するとしても、誘導標識や史跡案内図が存在していない。かつて網代温泉観光協会と協働で「石丁場ウォーク」を開催したことがあるが、恒常的な見学イベントは行われていない。

周辺では石に関する地域の歴史資料、築城石船積場の伝承地や関連する字名等が確認できるが、現在は多賀地域での採石業が行われていないこともあり、地域の人々の関心が低い。下多賀公民館、多賀小学校の郷土資料室に石丁場遺跡や地域の歴史資料が紹介、保存されているが、地域の人々にあまり知られていない。かつて熱海市退職校長会（春秋会）の協力で熱海市が作成した多賀網代文化散歩マップ（初版：平成14年、4版：平成23年）には

「中張窪石丁場跡」や「江戸城築城用の刻印石」などが取り上げられているが、改訂再版がされていない状態である。また、網代温泉観光協会のウェブサイトでは「石丁場跡」（網代）「千人石」が掲載されているが、文化散歩マップの情報を基に作られている。その他の地域の人々が集まるコミュニティ施設、文化施設、教育施設や観光客が集まる交通拠点において石丁場遺跡や多賀地域の文化・歴史について情報発信が十分でない。

また、保存会が、町内の文化祭で遺跡のパネルや石工道具の展示、石割実験を行ったことがある。学校教育の場においても保存会の働きかけで、多賀中学校で総合的な学習の時間や郷土研究を選択した熱海高校生が刻印をスケッチするなどフィールドワークを行ったこともある。しかし、学校の社会科の授業で特別の取扱いはなく、中学生の副読本である郷土読本「熱海」で2ページ程掲載し、自主学習の資料的な位置付けとなっている。また、史跡指定地ではないが、網代小学校では遠足が石丁場遺跡のある朝日山公園であった場合は石丁場跡を見学することがある。一方、江戸城の石垣ということもあって研究者や一般市民の関心は高い。平成22年度に「江戸の石を切る－伊豆石丁場遺跡から見る近世社会」、平成28年度に「ザ・ロックフェス！石丁場遺跡の魅力を語る」などシンポジウムを市内で開催し、市外では平成22年度に江戸遺跡研究会が第24回大会「江戸城・城下と伊豆石」を開催しているが、石丁場遺跡や江戸城の所在する静岡県、東京都以外にも採石を担当した大名家の九州地方など遠方から参加者もあった。

（2）課題

- ◇史跡の保存につながる効果的な活用イベントの開催
- ◇地域の歴史・文化の継続的な調査研究とそれに基づく学習機会の充実、活用方法の検討
- ◇史跡を核としたストーリーの構築と「面」としての活用
- ◇既存の文化・教育施設、コミュニティ施設、観光団体、保存会と連携した効果的な情報発信
- ◇一般の方にわかりやすく、史跡来訪を促すパンフレットや案内地図の作成
- ◇学校教育の場で史跡を知る機会の充実
- ◇広域連携する対象や手法の検討

3 整備の現状と課題

（1）現状

史跡内は全体的に緩い地盤で、日常的に倒木もあり、斜面地で足場が良好でない部分も多いが、近年の大雨、強風等の災害での被害はほとんどない。

植林地は間伐がされていないために暗く下草が生えにくいことで、見通しが良い所もある。イノシシが目撃されることもあり、温暖な時期にはスズメバチ・ダニ等の害虫の発生が確認され、見学の妨げとなる可能性がある。史跡内には、熱海市指定文化財「有馬玄蕃石場の標識石」の説明板のほか、保存会によって、簡易的な案内板、ベンチが設置されて

いる。また、散策ルートへの誘導を目的としてロープが設置されているが、史跡の保存を最大限に考慮して設定したものでなく、ルートから外れて自由に移動できるため、遺構の保存や見学者の安全性に問題がある。また、保存会による案内板等は老朽化している。史跡へのアクセスは鉄道駅やバス路線から遠く、駐車場もなく不便である。

下多賀の公園等には矢穴石・刻印石を展示している場所が散在し、石碑等にも転用されているが、説明板等が経年劣化し、内容も近年の研究成果を踏まえたものでない。また、史跡や他の展示場との関連性が無く、個別の説明にとどまっている。さらに、史跡や地域の歴史文化の情報を得ることができる施設が存在しない。加えて、指定地周辺には不法投棄らしき粗大ゴミが存在する場所も確認される（図5-1）。

（２）課題

- ◇史跡の保護を前提とした安全で活用にも適した見学路の設定
- ◇最新の研究成果を盛り込んだ適切な案内板等の設置
- ◇駐車場等の便益施設の検討
- ◇史跡や地域の歴史文化の情報を得ることができるガイダンス施設等の整備検討
- ◇史跡周辺の継続的な美化対策

４ 運営の現状と課題

（１）現状

熱海市が管理団体となり、熱海市教育委員会生涯学習課文化交流室で文化財保護事務を行っている。文化交流室は室長以下6名のスタッフがいるが、文化振興、文化団体、多文化共生、国際交流協会、文化施設等の分掌事務があり、主に学芸員1名が兼務で本史跡の事務を行っている。庁内での調整会議等は他の法令、計画と調整の必要性がなかったことから行われてこなかった。

学識者と地域の代表者で構成される調査・整備委員会を設置し、関係自治体へもオブザーバー参加を呼びかけ、委員会を開催している。

保存会が長く遺跡の保存活動を行ってきたが、一般市民にその活動実績が知られず、会員の高齢化、減少が進んでいる。また、史跡のガイドクラブ等、公開の窓口になるような組織は存在していない。

（２）課題

- ◇持続的な史跡の保存活用を適正に行うための体制の検討、専門職員の育成・確保
- ◇調査・整備委員会の指導、助言に基づく適正な事業の執行
- ◇庁内の関係部署とのスムーズな意思疎通、情報共有を図る調整会議等の設置
- ◇保存会の後継者育成や一般市民との協働による保存・活用のための体制づくり
- ◇静岡県や周辺関係自治体との連携の検討
- ◇公開の窓口となるガイドクラブ等の組織の育成



導入口の現状



導入口説明板



案内板と見学路の現況



見学路の崩れ



有馬玄蕃石場の標識石の説明板



有馬玄蕃石場の標識石と説明板
(保存会設置)



保存会設置のベンチ



強風等による倒木

図 5-1 史跡指定地の現状